
スタバと煙草と俺の期待

マル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スタバと煙草と俺の期待

【Nコード】

N0954D

【作者名】

マル

【あらすじ】

元カノとスタバで再開した結婚すると言われた俺は煙草に火を着けたありきたりな物語です。文字数少ないけどお願いします。

「久しぶり」

「元気そうだな、唯」長野市のスタバで元カノと再開した。

彼女と別れたのは5年前。高校卒業と同時に俺たちの恋愛は幕を閉じた。

「東京で旅行会社に勤めてるって聞いたけど仕事か何かか？」

「ううん、こっちに用事があってちょっとだけ帰ってきたの」5年前は俺から別れようと言い出した。目指す大学もしたい仕事も全く違ったのだ。

でも俺は正直別れなくなかったのかもしれない。

俺は内心期待している。

もう一度付き合えるかもしれないと・・・。

「な、なあ・・・」なんとか話を繋げていいふんいきに持ち込むかと思ひ、話かけた瞬間、唯に話を切られた。

「あのね、私結婚するんだ」思いがけない言葉ってやつかな。最初訳がわからなかった。

「そか。おめでと」少しの沈黙のあとその言葉だけ出た。

「明日、彼をお父さんとお母さんに紹介しに行くの」そりゃそうか。5年もほったらかしにしてたんだ。そりゃ誰かに取られるわ。

「あの、親父さんの事だ全力で邪魔されるな」なんとか笑って、締め付けられる心を押さえた。

「そうだね、あのね松本さんね、私と同じ会社に入ってるん・・・」それから何を話したかはあんまり覚えていない。

でも唯の笑顔は俺みたいになり上げたものとは違い、自然な・・・そしてとても幸せそうなものだった。俺と付き合っている時よりも、もっと幸せな笑顔。

ああ、悔しな。俺にはそこまでの、笑顔は作ってやれなかったのに。そいつは作れんのかよ。

「じゃあ私、そろそろ行くね。彼次の新幹線で長野駅に来るの」そういつて唯は席を立った。

「金はいいいよ、俺が払っとく」唯はありがとうと言って、スタバを後にした。

唯が立ち去った後、俺はマルボロの煙草に火を着ける。

「これ、だれにでもありそうだな」そう呟くと、煙草の灰が下に落ちた。

（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0954d/>

スタバと煙草と俺の期待

2010年11月28日03時31分発行